

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171300573		
法人名	医療法人社団 明星会		
事業所名	グループホーム明星		
所在地	加茂郡富加町夕田373番地		
自己評価作成日	令和5年9月4日	評価結果市町村受理日	令和5年11月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171300573-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和5年10月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染症対策の為に、自由に外出や地域の方々・馴染みの方々との交流がままならない日々が続いていますが、出来る限りのご家族や知人との面会が出来るように努めています。又食事は新鮮な地元で採れた野菜を使い手作りをし、時には季節感のある馴染みの料理(ぼたもち・朴葉寿司等)を提供しています。日中はそれぞれできる事(洗濯物ほし・洗濯物たたみ等やパズル・漢字合わせ等の脳トレ)していただく事で、身体機能低下や認知症進行予防に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人は、複数の医療・福祉事業を運営し、その一つである事業所は、家族や地域との結びつきを大切にしながら、利用者が自分らし生きられるよう、優しく温もりのある対応で支援している。地元在住の職員も多く、日々「自分の親」と生活を共にする気持ちでケアに取り組んでいる。利用者もまた、掃除や洗濯物たたみなど、出来る作業を行いながら、日常生活を送っている。動かなかった指が手作業の継続で動くようになった人、職員との会話で声が出るようになり、表情も明るくなった人などもあり、家庭的な雰囲気の中で、利用者の状態が少しでも好転するよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議において理念を復唱している。又日常生活において理念が生かされているか確認するようにしている。	「その人らしさ」「安心と喜び」「やさしさ、ぬくもり」「地域、家庭の結びつき」を大切にすることを理念に掲げている。入居前の利用者を知る地元在住の職員も多く、親と生活を共にする気持ちで尊敬の念を持って、支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	推進会議において利用者様の暮らしぶりを報告し地域とのつながりを持つようにはしているが、新型コロナが感染拡大している中では、職員も利用者様も日常的に交流するのは困難である。	コロナ禍で、地域の活動や交流は自粛している。近隣の住民からは、野菜や果物、花などが届き、事業所からは、おはぎや五平餅など、利用者と一緒に作った料理を近隣に届けるなど、向こう三軒両隣のつきあいは行なえている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においては多種多様な分野の色々な意見が聞け、サービス向上に繋げる事ができている。	コロナ感染拡大状況に合わせ、書面もしくは対面で会議を開催している。会議の構成メンバーは地域代表が多く、行事、事故、職員の異動などを報告し意見交換を行っている。入居後の利用者の身体状態が良くなった事例なども報告しながら、意見等は運営に反映させている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場の担当の方々とは常に連絡をとり、時には出向いたり、メールのやり取りなどし、グループホームの運営に大変理解を頂き良い関係ができている。	地域高齢化の実情、介護保険の動向、感染症対策など、行政からの報告を運営に活かしている。メールや電話だけでなく、時には役場に出向き、必要な書類の提出時に現場の実状を伝えるなど、連絡を密にしている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠は利用者様が危険な行為をされそうな時のみ、張り紙をして施錠するのみで、施錠せず常に解放して誰でも来やすくしている。身体拘束は毎月委員会を行い利用者様の身体拘束についてチェックをし、身体拘束のないケアに努めている。	身体拘束廃止委員会と虐待防止委員会を併せて開催している。拘束が必要だと思われる利用者も、より良い方法を話し合い、拘束しないケアを実践している。転倒リスクや利用者の心身の状態によっては玄関を施錠する場合もあるが、状態安定を優先し、施錠無しに努めている。	身体拘束廃止委員会で毎月チェック作業を行ない、運営推進会議で報告もしている。今後も、3か月に1回以上の委員会開催と議事録の整備、職員研修の記録等を整え、行政対応にも備えられたい。
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待行為について学び、防止に努めている。	職員研修を行い、虐待防止について学んでいる。家庭と仕事の両立が難しい職員は、気持ちが不安定につながる場合もあり、管理者は職員と個別に話し合うなど、虐待に繋がらないよう努めている。言葉による虐待についても、細心の注意を払っている。	

グループホーム明星

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身元保証人があるうえでの入居されている利用者様のみであり、直接かかわるような事がなく、後見人制度においては勉強不足と言える。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約においては入居前に十分説明をし、理解・納得をしていただくようにしている。問題が発生した場合は納得いくまで話し合いをするようにしている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルス感染症予防により、面会がなかなかできないが、娘さんとご主人の法事に出かける等できる限りご家族・利用者様の希望を聞き入れている。	毎月、「半布里の宿便り」として、写真入りの行事報告、利用者個々の暮らしの様子、預り金明細等を家族に送っている。コロナ禍でも、家族の思いを汲み、利用者が法事に参加できるよう支援するなど、管理者は家族が意見や希望を何でも言える関係作りに努めている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	皆が意見を自由に発しやすいように努力している。毎月の職員会議においても意見が多く出て、運営に反映されている。管理者だけで解決できない場合は法人事務次長に相談するなどしている。	地元在住の職員が多く、利用者の家族関係まで知り得る関係である。家族の悩みなども聴き、心に寄り添った支援に努めている。介護歴が長い職員の経験や個々の特技を生かした支援など、意見交換を行いながら、運営に繋げている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	代表者は職員全員と面談し、個々の実績や勤務状態を把握して向上心を持って働ける就業条件を整備していくよう努力している。	職場環境や就業条件等は、職員のワーク・ライフ・バランスにも配慮しながら、法人全体で整備に取り組んでいる。管理者は、現場で職員の意見や希望を聞き、休憩場所についても、ゆっくり休めるよう工夫している。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染症拡大により、外部への研修はなかなかできないが、法人内で研修受けた方による勉強会によりスキルアップに努めている	法人内で研修機会を設け、勤務を調整しながら、全職員が参加できるよう体制を整えている。介護福祉士の資格取得も支援している。管理者は、職員個々の専門職としての知識を活かしながら、スキルアップを支援し、更にモチベーションを高められるよう取り組んでいる。	

グループホーム明星

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	新型コロナウイルス感染症対策により外部の同業者等と交流を持つ事はできない事が多い。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様を人生の先輩と敬い、共に生活する事で時にはきょうだい、親などになりお互いをいたわりあうような場面が多くみられる。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の生活歴を把握し共有する事。利用者様がどのような暮らしを望まれているか、共に生活する中で発せられる思いを読み取り、できるだけご本人の希望する生活が送れるように支援している。	管理者は、利用者の入居前の生活歴を職員に伝え、全体で情報を共有している。個別対応時には、利用者が安心して話せるよう配慮しながら思いや意向をたずねている。職員間で共有し本人本位の支援の実現に努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	契約時に利用者様がどのように暮らしたいか希望を聞き入れている。又定期的にモニタリング、介護計画の見直しを行い、より良い暮らしができるように介護計画を作成している。	管理者がケアマネジャーでもあり、現場で利用者の状態を把握している。家族の訪問時に利用者の様子を伝え、介護計画に沿った支援を詳しく説明している。計画作成時には、申し送り内容や医師の意見を参考に作成している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で利用者様の思いや願いを引き出す気づきを養い、ふとした言葉にご本人の思いが込められている場合があり、記録はできるだけ詳細に記入するようにし、介護計画の見直しに活用している事もある。	個別記録は、職員がいつでも見ることのできる場所に保管し、仕事前には必ず目を通して見ている。利用者様の日々の様子や気になること、成功例や失敗例などを詳細に記録し、情報を職員全体で共有している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの多様化はできない事が多いが、その時々生まれるニーズに対してはできる限り支援するように努力している。	利用者の家族が、歯科医やマッサージ師の訪問サービスを希望する場合、出来る限り個別のニーズに応えている。衣替えの時期には、家族の依頼を受けて代行で購入するなど、個別の要望に対して柔軟に対応している。	

グループホーム明星

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症予防により外出や外部とのかかわりをひかえている事が多く、地域資を活用する機会も少ない。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できるだけ今までのかかりつけ医を継続していただくようにお話しており、かかりつけ医との連携もとれている。併設の診療所に変わる利用者様も多く、直ぐに主治医に気軽に相談するなどでき適切な医療が受けられる体制ができている。	契約時に事業所の方針を説明し、従前のかかりつけ医継続を家族に伝えている。受診は家族対応としているが、往診を依頼する家族もある。法人併設の診療所は定期的な訪問診療があり、薬剤などの説明や指導を受けている。緊急時は、かかりつけ医と連携し適切な医療を受けられるよう支援している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には職員も同行し病院関係者と情報交換し、長期の入院により認知症が悪化しないように、面会は困難でも連携をとり、病院側の申し入れも聞き入れるようにしている。	入退院時は、医療関係者との対応を管理者が行い、家族と連絡を取り合いながら支援している。退院前には利用者の心身の状態を把握し、職員と退院後のケアについて話し合いながら、利用者が入院前の生活に戻れるように支援をしている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りは行わない事を説明し、了解を得ているが、入居期間が長く重度化された方等は、できるだけ最期まで支援するよう努めている。	入居時に、重度化や終末期の対応について、事業所の方針を説明し、利用者と家族は同意している。利用者の状態の変化時は、関係者が早い段階で話し合い、状態に応じて医療機関や施設を紹介するなど、不安のないよう支援している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	経験年数が長い職員が多く、急変時の対応は正しく行えると言える。応急手当の訓練はあまり行っていないが、勉強会に置いて勉強し実践できるように努めている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍で、実施する事は出来なかった。	災害訓練については、誘導方法や関係機関の通報などについて話し合っているが、実施に至っていない。近隣住民には、協力を依頼している。今後、地域の消防団を含めた災害訓練の実施計画を検討中である。	コロナ禍で災害訓練の実践が難しい状況にあった。今後は、非常時に職員が迅速に行動するためにも、実践訓練に期待したい。また、地域の防災訓練にも参加し、地域との協力体制の充実に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症重度の方が多く意思疎通が困難な場合も多いが、一人一人を大切な家族と思い尊重しプライドを傷つけないような声掛けをするように務めている。	個人情報の保護やプライバシーの確保等、重要課題として研修を重ねている。利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応に努め、利用者との会話事には、言葉遣いに気を付けている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症重度の方でも常に寄り添い、コミュニケーションをとり、すこしでも思いを発する事ができるように努力している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様が嫌がることはしない。できるだけ一人一人がやりたいことをしていただくようにしている。又重度の方などはその日の体調をみてその日の過ごし方を支援している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の新鮮な食材を利用し、職員が手作りしているため、皆さん完食される。又季節の行事食を用意して、季節感を味わい、楽しく食事ができるように工夫している。食事の準備は重度化によりできない事が多くなっている。	旬の食材で、3食職員の手作りで提供している。近隣から差し入れがあったり、職員からの持ち込みもあり、食材は豊富である。時には利用者から調理方法を教えてもらいながら、食べ慣れた食材を使って地元料理を作り、利用者と職員が同じものを食している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせて量や食事形態を(、刻み食・ミキサー食)で提供しバランスよく全量食べて頂くように工夫している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の有する能力に応じて、毎食後口腔ケアを行い口腔内を清潔に保つことができている。	食堂横と居室に洗面台があり、口腔ケアを自分で出来る人は居室で行い、介助の必要な人には職員がサポートしている。利用者も、口腔ケアの必要性を学習し、毎食後のケアも当たり前になっている。今後、専門職の指導を得る企画も検討中である。	

グループホーム明星

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各自の排泄パターンを把握し、早めにトイレに行く習慣をつけ失敗を減らすように支援している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	お風呂のお湯が熱いのが好きな方は早めに入って頂くなど希望を取り入れているが、全般に職員の都合に合わせている事が多い。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢・体調・習慣に合わせて日中休んで頂くようにしている。又利用者様に合わせて部屋の室温・明るさを調節して安心して眠れるように支援している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の服用については把握しており、薬が変更になる場合は申し送り、記録して皆が薬の支援と状態把握に努力している。	服薬管理は管理者が行い、利用者ごとにケースに分け、適切に保管している。薬の変更時は全職員に説明し、情報を共有している。利用者が、飲み終わるまでの確認を徹底している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握して、洗濯物干しが好きな方、畳むのが好きな方と、それぞれできる事を無理なく楽しくできるように支援している。	利用者が少しでも出来る事を継続できるよう支援している。「私が役に立っている」「好きなことができる」と利用者が実感できるようサポートし、職員も、常に利用者へ労いの言葉をかけている。利用者が役割を持って暮らしている姿は、家族にも喜ばれている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症対策により、外出はあまり行えていないが、馴染みの方と食事に行く、買い物に行く、法事に行く等希望をかなえている。	コロナ禍で外出を自粛しているため、室内の大きな窓から、四季折々の変化を眺めている。最近では、近くの慰霊碑まで出かけたたり、事業所周辺を散歩している。法事などは家族の協力を得て出かけている。今後の外出計画を検討中である。	

グループホーム明星

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持っておられる方は1名のみで、お金を利用者様が支払う事はない。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話で自由にご家族と話をされている方又ホームにご家族から電話、手紙が届くなどのやり取りはある。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの大きな窓から桜等の草木、野鳥が飛んでいるのを見られ季節感が味わえる。又リビング続きの台所から手作りの食事の風景や匂いを感じられ食事の時間を知らせる等空間が広く過ごしやすいかと思える。	共用の空間は広く、福祉用具の利用者も廊下のすれ違いが容易にでき、安心・安全である。大きな窓から季節感を味わうことができ、時には野鳥や小動物を見ることが出来る。季節の花を飾り、台所からは調理の匂いが漂う家庭的な生活空間である。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時はそと部屋に行けれ自由に過ごされたり、皆さんと一緒が良いと部屋で休まれていてもリビングで過ごされる等自由に過ごされている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ使い慣れた物を持ってきて頂くようにしている、御主人の遺影や使い慣れたテレビなど持ち込まれ家にいる時同じような部屋になるように工夫している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	重度化により車椅子・歩行器を使う方が増えている為余分な物は置かないようにして空間をできるだけ広く取り、安全に生活できるように支援している。		